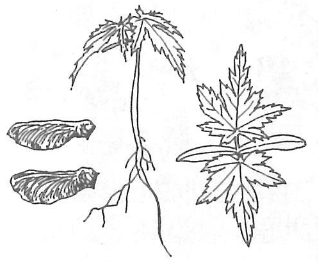
わが家の庭・窓辺

庭木の種子をまいて、自分で育て、自分の庭を作ってみませんか。

いま、いろいろな庭木に果実が成っています。モッコク、アメリカハナミズキ、モチ、ヤマモモ、カシワ、モミジ、サンゴジュなどです。

庭木類の繁殖方法には、実生、さし木、取り木、接ぎ木などがあります。園芸品種などは、さし木か接ぎ木で行わないと母樹の特性が伝わりません。

イロハモミジの実生



樹木の実生繁殖

実生法は、割合簡単に大量苗ができます。次の点を知って実際にまいてみましょう。

種子の性質を知る

一般に草花やイネ科植物の場合、乾燥させ、低温貯蔵すると寿命は長く保てますが、庭木では、逆に乾燥させると、発芽力を失うことが多いようです。乾燥させないようにしましょう。

発芽には時間がかかる

樹木の場合、野菜や草花と異なり、春3月に種子をまいても、4月に発芽するとは限りません。発芽までに1年ないし2年、長いもので3年以上かかるものもあります。

マキなど秋には種すると、翌年の梅雨時までには発芽しますが、モチなどは2年位かかります。

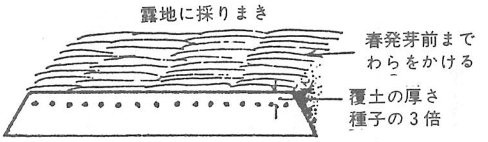
果肉を取り除く

果肉に発芽をおさえる物質が含まれている場合が多いので、これを取り除きます。ヤマモモなどがこれにあたります。

採取したら貯蔵せずにまく

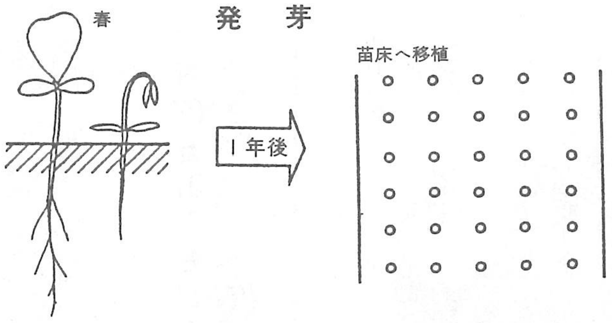
種子を貯蔵して春になってからは種する方法もありますが、多くの樹種では、種子の成熟後にまく、採りまきが無難です。

たねまき



は種

半日陰で、排水の良い場所を選び、適当な幅に床をつくり、腐葉土を入れ、よく耕します。表面をならし、クワで鎮圧します。条まきとし、覆土は種子の3倍とします。その上をワラで覆い、水滴を細かくして十分かん水します。



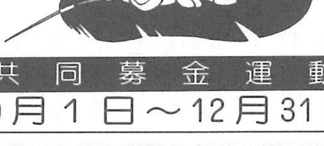
（指導　山武農業改良普及所　松尾支所）

わかちあう幸せ ― 赤い羽根共同募金

今年も10月1日から12月末日まで、歳末たすけあい募金を含めて全国一斉に共同募金運動が始まります。

町民の皆様のご協力により、昨年度の赤い羽根募金は246万1236円、歳末たすけあい募金は186万9876円という多大な実績を収めることができました。

今年も皆様のご協力をお願いいたします。



共同募金運動
10月1日～12月31日